



会津農林かわら版

会津農林かわら版 第35号(令和4年11月)

頑張る農林漁業者等の取組紹介

昭和かすみ草の販売額が6億円 過去最高を更新

昭和村を中心に柳津町、三島町、金山町の生産者で構成される「JA会津よつばかすみ草部会（部会員 88 名）」が生産する「昭和かすみ草」の令和4年度の販売額が、11月7日に6億円となり、過去最高を更新しました。

今年は春の雪解けが遅かったため、標高の高い地区で栽培準備が例年より遅れたり、6月の少雨や7～8月の高温などにより厳しい気象条件となりましたが、前年度改修された昭和村農林水産物集出荷貯蔵施設（通称：雪室）を活用することにより、出荷物の品質を落とさずに出荷・販売ができました。



▲収穫作業をする立川部会長夫妻



▲ハウスで咲く宿根カスミソウ

一方、消費面では当産地の出荷盛期である夏から秋にかけて、コロナ禍で延期されていた結婚式需要が回復し、単価高で推移したことが追い風となり、過去最高額となった前年度よりも出荷数量はやや少ないながらも、見事前年度を超える販売額6億円を達成することができました。

これからも夏秋期の宿根カスミソウの中心産地として、市場ニーズに応じた高品質の切り花が出荷できるよう、関係機関・団体と連携しながら技術支援を継続してまいります。【会津坂下農業普及所金山普及所】

頑張る農林漁業者等の取組紹介

昭和かすみ草の販売額が6億円 過去最高を更新 / 会津みしらず柿がマレーシアへ輸出 / 「奥会津金山赤カボチャ生産者協議会」が豊かなむらづくり活動で農林水産大臣業を受賞

令和4年8月3日からの大雨・洪水による農林業被害

頑張る農林漁業者等の取組紹介

第63回農業賞で2者が受賞 / 献穀米「天のつづ」厳かに献納

会津農林事務所の取組紹介

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました / 奥会津物産フェアを実施しました / ふくしま県 GAP 認証書交付式を行いました / 福島県優良農林水産土木工事表彰式にて高野地区の工事が表彰されました / 令和4年度福島県林業コンクール等表彰式が開催されました / 第2回緑の教室が開催されました / 次世代を担う若者が、土地改良施設について学びました / 第1回会津地方有害鳥獣被害防止対策担当者会議を開催しました / 令和4年度会津地方特定家畜伝染病防疫演習を開催しました / 令和4年度新規就農者等研修会を開催しました

会津農林事務所からのお知らせ

あいづ「まるごと」ネット SNS キャンペーン 2022 開催中 / 「棚田振興」×「魅力発信」「会津の棚田 応援キャンペーン」を開催します / 農林水産部公式 YouTube チャンネル「1400 のネタばらし」配信中 / 野生マツタケが非破壊検査により出荷販売ができるようになりました / 会津の6次化商品のご紹介

第35号 目次

頑張る農林漁業者等の取組紹介

会津みしらず柿がマレーシアへ輸出



▲発送式の様子

会津農林かわら版の最後では、協議会で新たに開発した「会津みしらず柿のシャーベットとアイスクリーム」を掲載していますので、ぜひご覧ください！

令和4年11月10日、JA会津よつば永井野選果場において、会津みしらず柿販路拡大協議会主催で「会津みしらず柿海外輸出発送式」が開催され、輸出が始まりました。

『みしらず柿』の名で親しまれているカキ「会津身しらず^{あいづみ}不知」は、福島県の秋を代表するくだものの一つです。今年度は不安定な天候の中での栽培となりましたが、平年よりも果実は大きめで良質な果実が収穫されています。協議会では平成20年から輸出を始め、東日本大震災で中断したものの、平成28年に再開しタイやマレーシアへ輸出してきました。今年度はマレーシアへ向け600kgが空輸され、現地的高级スーパーや百貨店などに並ぶ予定で、ほかにもタイとの販売交渉を進めています。

発送式では、星 所長が「海外でも好評価が得られるものと期待しています。」と挨拶し、関係者らとともにテープカットを行いました。【農業振興普及部】

「奥会津金山赤カボチャ生産者協議会」が豊かなむらづくり活動で農林水産大臣賞を受賞



▲奥会津金山赤カボチャ®

令和4年11月17日に宮城県仙台市の仙台合同庁舎において、令和4年度豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック表彰式が行われ、金山町の「奥会津金山赤カボチャ生産者協議会」が見事、農林水産大臣賞を受賞しました。

町の特産品である「奥会津金山赤カボチャ®」を通して、高齢者が元気に活躍できるように生産振興を進める一方で、一定基準以上の高品質なもののみを販売する体制を整え、地域団体商標を取得してブランド化を進めたことなどが高く評価されました。

平成20年の組織化以来、10余年の地道な活動が実を結び、昨年度の県表彰に引き続き、この度の栄えある受賞となりました。今回の受賞は10月1日のJR只見線再開通で盛況の金山町にとって、さらに活気づく明るいニュースと言えるでしょう。

今後とも「奥会津金山赤カボチャ生産者協議会」の活動を支援し、「奥会津金山赤カボチャ®」の生産振興を進め、さらなる地域の活性化を図ってまいります。【会津坂下農業普及所金山普及所】



▲表彰式の様子

令和4年8月3日からの大雨・洪水による農林業被害

令和4年8月3日に低気圧が東北地方を通過し、前線が停滞したため、福島県では3日夕方から雷を伴った非常に激しい雨が降り、会津北部を中心に記録的な大雨となりました。

会津管内では、土砂による水路の埋没、路面の崩落、農地への土砂や木の流入など多くの被害が生じ、被害額は8市町村で約36億円となりました。

市町村別の被害状況

(単位：千円)

市町村	被害額計	農業	農地・農業用施設	林業・治山等
喜多方市	2,567,057	64,300	2,180,000	322,757
北塩原村	67,759	2,559	51,000	14,200
西会津町	827,601	7,901	313,000	506,700
磐梯町	16,050	-	16,000	50
猪苗代町	59,053	15,063	41,000	2,990
会津坂下町	89,059	59	89,000	-
柳津町	6,000	-	6,000	-
金山町	300	-	-	300
合計	3,632,879	89,882	2,696,000	846,997
県計	3,694,416	90,286	2,732,000	870,537

※県計には水産業被害(1,593千円)を含む

農地・農業用施設における被害



▲本木上堰(喜多方市山都町)



▲農地への土砂流入(西会津町奥川)

農地、農業用施設の被害は、管内7市町村において931箇所、被害額は26億9,600万円に上り、特に喜多方市や西会津町などの会津地方北部で被害が多く発生しました。

喜多方市山都町では4路線の山腹水路が頭首工も含め流出、埋没など通水が困難な状況となり、同舟岡地区では一ノ戸川の氾濫により、農地へ土砂や木の流出があったほか、ため池においても堤体が流出するなどの被害がありました。

そのため、喜多方市等の防災重点農業用ため池と地すべり地区について緊急点検を行うとともに、被災状況調査の支援を行いました。

また、県内各農林事務所等から農業土木職員を喜多方市に派遣し、喜多方市山都町の山腹水路を中心とした応急復旧工事に向けた工事設計書の作成支援を行ったほか、災害査定に向けた資料の作成支援を行っています。

10月24日から12月16日まで、5週にわたり300件余りの災害査定を進めており、災害査定後は、復旧に向けた工事を順次進めてまいります。【農村整備部】

林業・治山等における被害

林道及び林地の被害は喜多方市や西会津町等で発生し、林道被害が46路線117箇所、被害額は3億8,199万円、林地被害が12箇所、被害額は4億6,500万円となりました。

林道被害としては、^{のりめん}法面崩落や路体決壊等の発生により通行が困難な状況となり、一部路線において

大幅な迂回を余儀なくされるなど生活にも支障が生じました。また、林地被害としては、山腹崩壊や土石流等の発生で、西会津町奥川地区においては家屋に土砂が流入するなどの被害が発生しました。

被災した市町村と連携して調査を実施し迅速な被害把握に努めており、林道施設については17路線29箇所の災害査定を11月14日から12月2日にかけて実施しております。また、林地被害については、保安林への指定や予算確保に努め、早期の復旧工事着手に向け進めてまいります。【森林林業部】

▼林道被害 洲谷線(喜多方市)



▼林地被害(西会津町奥川)



今回の豪雨災害により被害に遭われた皆様へ心から御見舞を申し上げます。県では、早急な復旧が図れるよう、関係機関と連携し復旧工事等に努めてまいります。

★ 頑張る農林漁業者等の取組紹介

＼ 第 63 回福島県農業賞で2者が受賞 ＼

令和4年9月2日、福島市の杉妻会館において、第63回福島県農業賞表彰式が行われ、会津坂下町の株式会社若宮ばくさく（内海淳一 代表取締役）が最高賞の農林水産大臣賞を受賞したほか、新規就農部門で昭和村の菅家博之氏が受賞しました。受賞した皆様が、今回の受賞を励みに地域農業の担い手として、さらなる経営発展を実現されることを御期待いたします。【会津坂下農業普及所】

【農業経営改善部門】株式会社若宮ばくさく



▲左：内海淳一 代表取締役、右：鈴木寿夫 取締役

平成19年に法人化し、水稻、そば、6次化製品を手がけ、経営面積は約80haと会津地方でも有数の規模になっています。ドローン等のスマート農業を取り入れ作業の効率化を図るほか、条件の悪い農地も担うなど、地域農業の維持・発展に尽力されています。また、堆肥利用や農薬低減など環境にやさしい農業にも取り組まれています。

【新規就農部門】菅家博之 氏



▲中央 菅家博之 氏

宿根カスミソウを栽培し、離農者の農地を借り受け規模拡大を図るなど、就農後に短時間で急成長を果たしたモデル経営としての実績が高く評価されました。本年度は、新規就農者の研修を受け入れており、30代前半でありながら「昭和かすみ草」のブランドを支える貴重な若手農業者となっています。

＼ 献穀米「天のつぶ」厳かに献納 ＼

三島町の小松正信氏が栽培した「天のつぶ」が、^{にいなめさい}新嘗祭に供するための新穀として令和4年10月26日に厳かに宮中に献納されました。例年は皇居で献納式が執り行われますが、令和2年度より新型コロナウイルス感染症の影響により郵送での献納となりました。【会津坂下農業普及所】



▲出穂期の献穀米の様子

【新嘗祭】天皇陛下が神嘉殿において、その年に収穫された穀物を皇祖はじめ神々にお供えになり、陛下ご自身もこれを食する祭事であり、明治25年以降毎年11月23日に宮中行事として行われている伝統行事です。

【小松正信 氏】会津農林高校を卒業後、18歳で就農し、53年間三島町西方地区を中心に地域農業の担い手として農業を営んでいます。地域に大規模農家は少なく、積極的に農地集約に取組み、今では三島町の水田作付面積の3割にあたる12haを作付けしています。今回、三島町初の献穀者として選ばれました。

会津農林事務所の取組紹介

＼「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました／

県産農林水産物の販売促進を図るため、「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました。次回は12月に第4回を開催予定です。今後もイベント等を通して、県産農林水産物の安全性や美味しさの魅力を発信していきます。【企画部】

第2回 道の駅裏磐梯(令和4年10月1日)

県産農林水産物等に関するアンケートに回答いただいた先着100名様へ会津産の有機農産物(ミニトマト)をプレゼントしました。ミニトマトは大変好評でした。また、有機農産物等のPRのためにパンフレットやチラシを配布しました。



第3回 イオンいわき店(令和4年10月15~16日)



奥会津物産フェアにおいて、税込1,000円以上お買い上げの先着100名様へGAP認証会津産きゅうりをプレゼントしました。併せて、GAPについてのパネル展示やチラシを配布し、県産農林水産物の美味しさや安全性をPRしました。

＼ 奥会津物産フェアを実施しました ／



▲イオンいわき店での様子

令和4年10月15~16日及び22~23日、奥会津地域の農林水産物や6次化商品の販売促進イベント「奥会津物産フェア」を開催しました。イオンいわき店(15~16日)とイオン福島店(22~23日)において、延べ10事業者が出展し、数多くの6次化商品などが店頭に並びました。会場には多くのお客様が来場し、なかなか手に入らない奥会津の商品を買い求めていました。

会場では10月1日から全線運転再開した只見線のジオラマとパネルを展示したほか、農林水産物やグリーン・ツーリズムに関するチラシ等を配布し、広く奥会津地域をPRしました。【企画部】

会津農林事務所の取組紹介

ふくしま県GAP認証書交付式を行いました

令和4年10月12日、ふくしま県GAP（FGAP）の令和4年度第2回認証委員会で、会津農林事務所管内から新たに4経営体5件が認証され、10月28日に県会津若松合同庁舎において認証書交付式を行いました。

今回新たに認証されたのは、①はんざわエコファーム（半澤一成氏、野菜・アスパラガス）、②あかべこ農園（新田高広氏、米及び野菜（エダマメ）の2件）、③管直人氏（野菜・トマト、ネギ）、④まんぶく農園（大竹紀歳氏、米）です。

交付式当日は星 所長から認証書が手渡され、「FGAPの取組により、それぞれの経営の発展に繋がることを期待しています。」と挨拶がありました。

今後、FGAPを取得した皆様が継続してGAPに取り組んでいけるよう、引き続き農林事務所として支援してまいります。【農業振興普及部】



▲左から 半沢氏、新田氏、管氏、星 所長

【ふくしま県GAP（FGAP）】放射性物質対策を含めた本県独自の基準に従って農作物を生産・出荷する生産者・団体によるGAP（農業生産工程管理）の実践のことで、県が認証しています。

福島県優良農林水産土木工事表彰式にて 高野地区の工事が表彰されました

農地中間管理機構関連農地整備事業では場整備工事を実施している高野地区において、農地中間管理機構関連2021工事を受注したマルチ建設株式会社が、令和4年度福島県優良農林水産土木工事表彰 ほ場整備部門を受賞しました。

本工事は、積雪地域のため冬期間の作業が限られることや、地区内に文化財包蔵地が広く分布していることに加えて、排水路は発掘調査が終わらなければ施工できないほか、工事中も地区下流へ用水手当を行う必要がある難易度の高いほ場整備工事でした。

受賞したマルチ建設株式会社は、文化財にかかる会津若松市文化財課との協議調整や、工事にかかる工程調整を綿密に行い、発掘調査が完了した箇所から順次施工を開始することにより、21.7haのほ場整備工事を工期内で完了させたことなどが高く評価されました。【農村整備部】



▲上空から見た工事区域

会津農林事務所の取組紹介

＼ 令和4年度福島県林業コンクール等表彰式が開催されました ／

県では毎年、福島県林業祭の開催に合わせて5つの表彰を合同で行う**福島県林業コンクール等表彰式**を実施しています。今年度も管内の応募者が多数入選し、令和4年10月22日に郡山市安積町のホテルバーデンにおいて表彰されました。今後も林業関係者や先進的な技術・知識を有する技術者と連携し、一体的な普及指導により当地域における技術の維持・向上に努めてまいります。【森林林業部】

令和4年度福島県林業コンクール

山林苗畑部門では苗木の生産管理や生産性向上の創意工夫等が評価され、森林育成（間伐）部門では林業経営の計画性や適正な間伐率等の施業技術について評価され、受賞しました。

山林苗畑部門

- ・福島県農林種苗農業協同組合代表理事組合長賞 猪苗代町 古川一男氏

森林育成（間伐）部門

- ・公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会会長賞 猪苗代町 赤埴山組合委員長 笠間正氏



第73回福島県学校関係緑化コンクール

多種多様な活動を通じた環境教育や地域交流が高く評価され、昨年度に続いて両部門で管内の小学校4校が知事賞などを受賞しました。

学校林等活動の部（小学校）

- ・福島県知事賞、福島民報社社長賞 会津若松市立 川南小学校
- ・教育長賞 会津若松市立 湊小学校

学校環境緑化の部（小学校）

- ・福島県知事賞、福島民友新聞社社長賞 会津若松市立 大戸小学校
- ・教育長賞 会津若松市立 川南小学校
- ・関東森林管理局長賞 会津若松市立 湊小学校
- ・福島県森林組合連合会会長賞 喜多方市立 第一小学校

福島県きのこ品評会

管内生産者の適正な栽培管理や品質向上の取組による高い生産技術などが評価され、林野庁長官賞（2部門）などを受賞しました。

乾しいたけの部

- ・林野庁長官賞 磐梯町 鈴木吉一氏

なめこ・ひらたけの部

- ・林野庁長官賞 西会津町 田崎眞平氏

生しいたけの部（菌床栽培部門）

- ・福島県農業協同組合中央会会長賞 西会津町 西会津しいたけファーム 土田杏子氏
- ・福島県きのこ振興協議会会長賞 西会津町 三留良司氏

乾しいたけの部

- ・福島県知事賞 磐梯町 佐藤栄喜氏
- ・全国椎茸商業協同組合連合会理事長賞 西会津町 富士ソフト企画株式会社 中村寛基氏



会津農林事務所の取組紹介

＼ 第2回緑の教室が開催されました ／

令和4年10月12日に会津流域林業活性化センター主催による「第2回緑の教室」が、各市町村や林業事業者の今年度の新たな担当者等を対象に、測量などの基本的な森林調査技術習得を目的として開催されました。

当日は13名の参加があり、会津坂下町八幡コミュニティセンターでの座学の後、塔寺憩いの森公園に移動し、2班に分かれて測高機器を用いた樹高測定や、輪尺による胸高直径計測、巻尺とコンパスを用いた周囲測量などについて現地研修を行いました。

近年は、航空レーザ測量成果やデジタルコンパスの導入により精度向上や省力化が進んでいますが、今回の研修は基本に立ち返り、従来から実施してきた簡易的な機器を用いて行われました。研修生の皆さんは、森林内の足場が悪い状況に苦戦しながらも、技術習得に向けて熱心に受講されていました。今回の研修により、森林施業図の作成方法や森林調査データの読み方について理解が進み、業務に活用されることが期待されます。

今後も会津流域林業活性化センターと連携し、わかりやすく充実した内容の研修開催に努めてまいります。

【森林林業部】



▲研修の様子

＼ 次世代を担う若者が、土地改良施設について学びました ／

令和4年11月7日、会津農林高校の生徒を対象に、土地改良施設が農業生産や国土、自然環境の保全に果たしている様々な機能や役割について理解してもらうことを目的に、研修会を実施しました。「ふくしまの農村学びの場」事業の一環として開催するもので、実際に事業を実施している工事現場で行いました。

当日は、会津農林高校森林環境科1年生6名が、地すべり対策、農業用水路パイプラインの更新、ため池の改修の工事現場に赴き、それぞれの施設について各建設会社の担当者から説明を受けました。

生徒には「パンフレットを使った丁寧な説明が分かりやすい」と好評でした。また、「ICT土工などに触れることができ、最新の工事技術や建設機械に興味を持った」などの感想も寄せられました。【農村整備部】



▲会津農林地区（地すべり対策）



▲大窪地区（ため池改修）



▲会津宮川地区（パイプライン）

会津農林事務所の取組紹介

＼ 第1回会津地方有害鳥獣被害防止対策担当者会議を開催しました ／

イノシシやツキノワグマ等の野生鳥獣による農作物等の被害は年々深刻さを増しており、会津地方の農業振興に大きな影響を与えています。

そこで、野生鳥獣による農作物被害の低減を図ることを目的に、令和4年10月20日に**第1回会津地方有害鳥獣被害防止対策担当者会議を開催**しました。当日は会津地方13市町村と県関係機関の担当者29名が出席しました。

会議では、各市町村から「人手不足で、電気柵を設置しても適切な維持管理が難しい」、「集落ぐるみで取り組む被害対策の体制づくりが難しい」といった課題が多く挙げられました。

これに対し、当所からは県が支援する鳥獣被害対策モデル集落の事例紹介を行い、その後、参加者による集落ぐるみの取組などについての情報交換を行いました。参加者からは「集落ぐるみでの対策を支援する事業や仕組みづくりについて参考になった。」との感想が出されるなど、集落ぐるみで取り組むことの有効性についての“気づき”の機会となったようです。

今後も、野生鳥獣による農作物被害を低減するために、市町村や県関係機関との連携を強化して被害対策を支援してまいります。【農業振興普及部】



▲会議の様子

＼ 令和4年度会津地方特定家畜伝染病防疫演習を開催しました ／

令和4年11月10日、会津美里町新鶴体育館及び新鶴球場において、**会津地方特定家畜伝染病防疫演習を開催**しました。この演習は、会津地方において鳥インフルエンザや豚熱などの特定家畜伝染病が発生した際の、初動対応や防疫措置等を体験・確認することを目的に開催したものです。

演習では、市町村、警察署、福島県畜産振興協会、J A、県等の関係機関が一堂に会し、「集合センター班」、「現場作業班」、「消毒ポイント班」の各班に分かれ、役割分担や作業内容を確認したほか、作業上の問題点や課題について意見交換を行いました。

実技演習の後、会津地方特定家畜伝染病会津地方本部副本部長である会津家畜保健衛生所長から、「毎年のスキルアップが大切。現場作業に当たる方だけでなく、各班の班員が参加して運営にあたる演習は有意義である。今後はもっと多くの人に参加・体験してもらいたい。」との講評がありました。

今後とも、万が一、会津地方において特定家畜伝染病が発生した場合には適切な対応が迅速にとれるよう、日頃からの体制整備に努めます。【農業振興普及部】



▲現場作業班の演習の様子

会津農林事務所の取組紹介

＼ 令和4年度新規就農者等研修会を開催しました ／

第1回「鳥獣被害防止対策の基礎」

令和4年9月30日、喜多方市慶徳公民館において、特定非営利活動法人おーでらす（磐梯町）の堀部良太氏を講師に迎え、「基本的な鳥獣被害対策とその防除方法について」と題し、発生している鳥獣害の事例とその要因及び具体的な防除方法についての講演会を開催しました。

また、当所より「電気柵の設置・点検について」説明をした後、グループに分かれ、実際に電気柵の設置等を行う実習を行いました。この中では、電気柵の正確な設置方法や設置の際の注意事項等を実践形式で学びました。

参加した新規就農者や就農準備中の研修生らは熱心に聴講し、鳥獣被害に対する知識、理解を深めていました。



第2回「鈴木農場の取組とブランド野菜」



令和4年11月14日、道の駅あいづ湯川・会津坂下会議室において、福島県指導農業士会長の鈴木光一氏（郡山市）を講師に迎え、「～鈴木農場の取組とブランド野菜（野菜の少量多品目栽培と経営）～」を表題に、消費者目線での野菜栽培とそのブランド化、仲間づくりによる産地化、鈴木農場における経営・販売戦略についての講演会を開催しました。

講演後の意見交換会では参加者から、社会変化に応じた品種の選び方、多品目生産における栽培管理方法のポイント、食味向上対策、土づくりへのこだわりなど多くの質問が出され、講師の回答に熱心に耳を傾けていました。

今後の研修会予定

第3回

「園芸品目（きゅうり・アスパラガス等）の病虫害防除」

- ・期日 令和4年12月7日（水）
- ・場所 喜多方合同庁舎本庁舎3階大会議室
- ・講師 県植物防疫協会

第4回

「土づくりの基礎講座」

- ・期日 令和5年1月中旬
- ・場所 会津若松市
- ・講師 農業総合センター生産環境部

第5回

「タネ屋だからわかる品種の話」

- ・期日 令和5年2月上旬
- ・場所 会津坂下町
- ・講師 県指導農業士会長 鈴木光一氏

第6回

「農業機械の点検・整備の基礎」

- ・期日 令和5年2月中旬
- ・場所 会津若松市
- ・講師 農業機械メーカー

【農業振興普及部・喜多方農業普及所・会津坂下農業普及所】

会津農林事務所からのお知らせ

＼ あいづ“まるごと”ネットSNSキャンペーン 2022 開催中 ／

あいづ“まるごと”ネット Twitter では、令和4年11月7日よりあいづ“まるごと”ネット SNS キャンペーン 2022 を開催中です！下記応募方法に従い、Twitter をフォロー＆リツイートした方の中から、**抽選で毎月10名様に2,500円相当の6次化商品をプレゼント**します。

第1弾では、会津坂下町でくるみの加工・販売を営む「斎藤金五郎商店」（11月7日投稿）、喜多方市で様々な事業者と連携し食品加工に取り組む「橋谷田商店」（11月18日投稿）をご紹介しました。

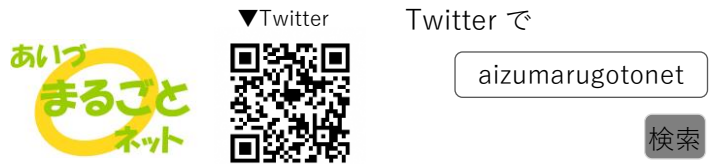
第2弾は12月1日から開始しますので、ぜひTwitter をチェックしてみてください。【企画部】

- 期間** 第1弾 令和4年11月7日～11月30日
 第2弾 令和4年12月1日～12月28日
 第3弾 令和5年1月4日～1月31日

主催 あいづ“まるごと”ネット

応募方法

- ・あいづ“まるごと”ネット Twitter に、それぞれのキャンペーン期間内で2回、6次化事業者等を紹介する記事を投稿します。
 - ・あいづ“まるごと”ネット Twitter アカウント (@aizumarugotonet) をフォローしてください。
 - ・投稿した2回の対象ツイートに対し、2回ともリツイートすれば応募完了です。
- ※「#あいづまるごとキャンペーン 2022」が付いている投稿が対象ツイートです。



「棚田振興」×「魅力発信」
 ＼ 「会津の棚田 応援キャンペーン」を
 開催します

会津農林事務所公式 Twitter では、12月から会津にある棚田の最新情報を投稿します。Twitter をフォロー＆対象ツイートをリツイートした方の中から**抽選で10名様に棚田で栽培したお米や6次化商品（2,000円相当）をプレゼント**するキャンペーンを開催します！

【企画部】

期間 令和4年12月5日～令和5年1月27日

応募方法

- ・福島県会津農林事務所公式 Twitter (@aizu_nourin) をフォローしてください。
 - ・会津の棚田に関する記事を4回投稿します。投稿した記事を1回以上リツイートすれば応募完了です。
- ※「#会津の棚田応援キャンペーン」が付いている投稿が対象ツイートです。



▲Twitter

Twitter で 検索
 福島県内の棚田について、詳しくは
 検索

農林水産部公式 YouTube チャンネル
 「1400のネタばらし」配信中

農林水産部職員が、それぞれ自由な発想で企画・製作する農林水産部公式 YouTube チャンネル「**1400のネタばらし**」。会津農林事務所で作成した動画をご紹介します！【企画部】



「棚田に行ってみた！」
 企画部
 傾斜地に段階状に設けられた田んぼ「棚田」。会津の4地区の棚田をご紹介します。



「取組むぞ！GAP！！」
 農業振興普及部
 県も推進しているGAP（農業生産工程管理）についてご説明します。

YouTube で 検索

会津農林事務所からのお知らせ

野生マツタケが非破壊検査により出荷販売ができるようになりました

昨年9月より出荷制限中の市町村から採取された野生マツタケについても、非破壊検査を受け、放射性物質の基準値以下であることが確認されたものは出荷販売ができるようになりました。

昨年は、対応できる非破壊検査器が郡山市の林業研究センターにしかない中、検査の受付から採取者への返納までに時間がかかり、鮮度が低下することが課題でした。

このため今年は、検査の受付を市町村を経由せず当所で行い、検査できる状態に調製した後、林業研究センターで検査を実施、受付当日に採取者にマツタケを返却できるようにするなどの改善を行い、検査の受付からマツタケ返却までの時間短縮を図りました。これにより、今年は、新鮮な喜多方市産マツタケ約2.9kg(23本)を市場販売することができました。また、市場からも鮮度の良さに対する好評価を得られました。

当所では、来シーズンに向けて引き続き関係者と連携し、検査のさらなる迅速化に向けた体制づくりに取り組んでまいります。【森林林業部】



▲持ち込まれたマツタケ



▲販売個体別に袋詰めし重量等記録



▲検査済シールが添付されたマツタケ

会津の6次化商品のご紹介

会津みしらず柿のシャーベット・アイスクリーム

J A会津よつば、会津若松市、会津坂下町、会津美里町でつくる「会津みしらず柿販路拡大促進協議会」は、“柿の日”である10月26日より、会津みしらず柿を使用したシャーベットとアイスクリームの販売を開始しました。湯川村の合同会社ドゥミールが1年かけて開発・製造し、会津若松市にあるDESIGN CLIPのグラフィックデザイナー 齋藤志登美氏がパッケージをデザインしました。

柿の果肉を50%以上加えたシャーベットは、上品な甘さで、少しねっとりとした舌触りの良い食感が特徴です。アイスクリームはさっぱりとしたクリームチーズを使用し、みしらず柿の果肉がふんだんに入っています。価格はどちらも税込400円で、道の駅あいつ 湯川・会津坂下やJ A会津よつば直売所 まま〜じゃ、食彩館うまかんべ!!などでお買い求めいただけます。ぜひご賞味ください。【企画部】



お問合せ

合同会社 ドゥミール
☎0241-23-6148

【ご意見・お問合せ】

福島県会津農林事務所企画部地域農林企画課

〒965-8501

福島県会津若松市追手町7番5号(会津若松合同庁舎2階)

☎(0242)29-5369 FAX(0242)29-5389

E-mail:kikaku.af04@pref.fukushima.lg.jp

